

第 2 章 都市づくりの目標

1. 将来都市像の設定

(1) 将来都市像

「第2次秩父市総合振興計画(2016(平成28)年3月)」では、地域に息づく歴史的、文化的資源を守り活用し、創造的な文化活動や産業活動が活発に行われる彩り豊かで、安心していつまでも住み続けられる都市を目指し、「**豊かなまち、環境文化都市ちちぶ**」を将来都市像に掲げています。

本計画は、この「第2次秩父市総合振興計画」を上位計画に、他の分野と連携しつつ、都市づくりの側面から将来都市像の実現を後押しするものです。

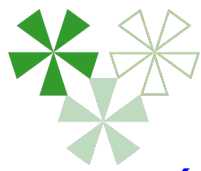
このことから、本計画の将来都市像も「第2次秩父市総合振興計画」と同様、「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」を掲げます。

<将来都市像>

豊かなまち、環境文化都市ちちぶ

(第2次秩父市総合振興計画)

※第2次秩父市総合振興計画では、「環境」「文化」「都市」をキーワードで構成していたこれまでの将来都市像に、新たに「豊かさ」を加えた都市像としています。



(2) 都市づくりのテーマ

本市は関東山地の東側、埼玉県北西に位置し、面積は577.83km²と県全体の約15%を占め、その87%は森林という緑豊かなまちです。東京都、山梨県、群馬県、長野県と接する都県境には三国山、甲武信ヶ岳、雲取山など2,000m級の山々が連なり、流れ出る荒川やその支流に沿って集落が形成され、秩父盆地の上に市街地が位置しています。

その市街地の中心部には秩父地域の総鎮守である秩父神社、大滝には三峯神社が鎮座しており、札所巡りや秩父神社例大祭(秩父(夜)祭)、吉田の棕神社大祭(龍勢祭)など、秩父地域の各地でさまざまな祭祀が営まれ、周囲の自然と相まって地域固有の文化を形づくっています。

産業においては、古くは林業や養蚕、絹織物業、また大正時代以後はセメント産業に代表される鉱工業を中心に栄え、中心市街地には地域における商業・金融機能が集積し、非常な賑わいを見せていました。

しかし、産業構造の変化、人口減少や少子・高齢化などを背景に本市をとりまく環境は厳しさを増しています。近年セメント生産が減少し、これに代わる産業として観光業の育成に傾斜してきましたが、新型コロナウイルスにより本市の観光産業も大きな影響を受けており、今後は「新しい生活様式」やコミュニケーションのデジタルシフトなど、新たな時代の流れに積極的に対応していかなければなりません。

こうした中、将来都市像である「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」を実現するには、秩父固有の歴史・文化や恵まれた自然を活かしつつ、暮らす人、訪れる人の様々な価値観を許容し、負担を分け合い、豊かさを感じることでできる都市づくりを進めていく必要があります。

このことから、将来都市像を踏まえた「都市づくりのテーマ」として、『**秩父固有の歴史と文化、自然に包まれて、安全で心地よい暮らしと訪れる喜びを実感できる、魅力あふれるまちづくり**』を設定します。

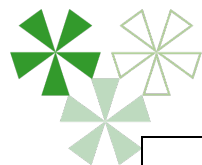
<都市づくりのテーマ>

**秩父固有の歴史と文化、自然に包まれて、
安全で心地よい暮らしと訪れる喜びを実感できる、
魅力あふれるまちづくり**

(3) 都市づくりの基本目標

都市づくりのテーマとして掲げた『秩父固有の歴史と文化、自然に包まれて、安全で心地よい暮らしと訪れる喜びを実感できる、魅力あふれるまちづくり』を踏まえ、次の4つを「基本目標」として、都市づくりを進めます。





基本目標 1	みんなが「総活躍」し、 豊かさを感じられる日本一しあわせなまち
キーワード	都市構造、土地の有効利用、居住環境、雇用環境、にぎわい、福祉環境

日本における人口は、出生率の低下を背景に2008(平成20)年ごろの1億2,808万人をピークに減少に転じており、2040(令和22)年に1億833万人程度、秩父市においても現在の63,555人(2015(平成27)年国勢調査)から2040(令和22)年には45,000人程度まで大きく減少する見込みです。また、都心部に比べ速いペースで進む高齢化率の上昇と生産年齢人口の減少によって、経済活動だけでなく市民活動なども含めた地域の活力そのものの低下が危惧されています。

秩父市では、この厳しい環境下で「持続可能」なまち・「豊かさ」を感じられるまちを実現するため、従来より「環境・観光文化都市ちちぶ」(第1次総合振興計画)として、交流人口の増加に努めてきました。観光入込客数は2015(平成27)年に500万人を突破、まちなかは賑わいを取り戻しつつあるなど顕著な成果を見せています。第2次総合振興計画においては基本目標を「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」に変更し、この豊かさを他方面に波及させようとし、交流人口の増加を豊かさに変える政策を継続しています。今後、新型コロナウイルス流行後の社会動向に注視しつつ、引き続き観光振興や交流人口を増加させるための施策を進めるとともに、「新しい生活様式」に対応した都市部からのオフィスの分散化やワーケーションの推進、県内自治体に向けたマイクロツーリズムに対するプロモーション、国内自給型サプライチェーンの構築に向けた生産機能の国内回帰などの動向に機敏に対応し、既存企業・新規企業等を問わず、より合理的で生産性の高い事業活動が可能になる土地利用転換も含めた環境整備を図ります。

また、人口減少社会においては、各世代、障がい者、LGBT、移住者、外国人、観光客などの垣根を超えて、お互いに支え合っていかなければ地域社会を維持することはできません。そのためには、差別なく負担を分けあう、みんなが「活躍」できる社会となることが重要です。

そして、これらの経済活動・市民活動を支えるには、長期的視点に立った組織の合理化や、効率的かつ便利な都市構造の実現が不可欠です。日々進歩する先進技術を積極的に導入・活用しつつ、テレワークの進展・定着なども見据え、定住や二地域居住の場として選択されるのに十分な、良好な居住環境と必要な生活基盤を備えた魅力的な市街地の形成、集落における既存コミュニティの維持などを通じ、整備された各拠点間を交通ネットワークで結びつける「コンパクト+ネットワーク」社会の構築により、経済活動だけでなく、医療・福祉、保育・教育など生活関連サービス機能の利便性を向上させ、「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」を目指します。

基本目標2	さまざまな移動・物流手段に支えられた、 ヒト・モノ・カネ+情報が行き交う活力あるまち
キーワード	道路、公共交通、交通マナー

本市は広い市域に固有の文化を持ち、今なお古くからの祭祀を守り続ける集落がそこかしこに存在しています。今後、人口減少・高齢化がより一層進行し地域社会の維持が困難になる中で、日常生活や経済活動を支える移動・物流の利便性を高めていくことは必要不可欠です。テレワークによる働き方の改革やGIGAスクール構想による教育格差の改善、先進的で高度な通信技術を活用したコミュニケーションのオンライン化、国や民間事業者と協力して行うドローンハイウェイ、再生可能エネルギーの効率的な利活用など、IoT、ロボット、人工知能（AI）といった先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していくSociety5.0の実現を通じて、良好な地域社会の維持の実現を目指します。

また、公共交通も大切な要素の一つです。本市を訪れる観光客はこれまで増加傾向にあり、近年減少傾向にあった鉄道利用者も持ち直しつつありますが、バスにおいては依然利用が低迷し危機的状況が続いています。アンケートの結果によれば、市民の公共交通に対するニーズは高いものの、年代・地域・目的によって必要とされる形態には大きな違いがみられます。今後、鉄道・バスに加え福祉有償運送やタクシーなども含め、秩父地域の公共交通に対する最適解を見つけ出さなければなりません。

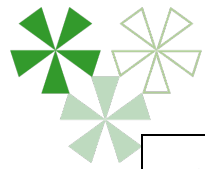
さらに重要なのは道路です。ヒト（交流）だけでなく、モノ・カネ+情報も含めた地域間「対流」の活性化には、わかりやすい道路ネットワークの構築が不可欠です。2018(平成30)年に蒔田地区まで延伸した「西関東連絡道路・国道140号バイパス」について、大滝トンネルの早期完成並びに秩父市の中心市街地へのアクセス道路である（仮称）長尾根トンネルの早期着工を関係機関に働きかけていきます。

これら先端技術の応用、東京方面を含めた周辺都市からの交通手段の確保、目的に応じた市内の各拠点間や地域間を移動できる道路・公共交通ネットワークの構築のほか、駐車場や駐輪場の確保などに取り組むことで、「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ+情報が行き交う活力あるまち」を目指します。

「ヒト・モノ・カネ+情報」とは？

ヒト・モノ・カネ+情報とは、経営学において企業が経営活動に対して投入可能な有形、無形物のすべてのことを言います。企業はこれら「ヒト・モノ・カネ+情報」を有効利用して利益の獲得を目指します。

市の行政運営をこの経営学の考え方になぞらえて、「ヒト（市民+入込客）・モノ（土地などの資産）・カネ（財政や民間投資）+情報」をうまく活用し、地域を活性化させ、市民の「豊かさ」の実現を目指します。



■秩父版「コンパクト+ネットワーク」社会の必要性

- 本市の中心市街地には、都市基盤施設の整備が進んだ都市空間が形成され、秩父圏域の中心都市として様々な都市機能が集積していますが、人口減少とこれに伴う空き家の増加から空洞化、いわゆる都市のスポンジ化が進行しています。一方、今後も人口減少が予想される中であっても、都市機能の集積や都市基盤施設の整備が必ずしも十分でない外縁部で住宅の立地が進み、人口が増加しています。このように、社会資本の整備状況と人口動向にミスマッチが生じつつあり、効率的で公共投資の効果の高い都市づくりが課題となりつつあります。
- 山間部などにおいては、集落の一部で無居住化する可能性が予測されるなど、自然の豊かさや首都圏の水源地である森林を守り育ててきた地域コミュニティを近い将来維持できなくなる恐れがあります。しかし、市財政が厳しさを増す中、必要十分な環境整備のための公共投資には限りがあると言わざるを得ません。
- 国が提唱する「コンパクト+ネットワーク」社会は、こうした地方都市が抱える課題を解決するための方策といえ、本市においてもその趣旨に沿ったまちづくりを進めていくことを基本目標に掲げますが、広大な市域を有する本市には、歴史的な沿革や長い時間をかけて育まれてきたコミュニティ、文化、人々の暮らしなどが地域によって異なることから、地域の個性や魅力を尊重しつつ、市として一体的な持続的発展を目指すため、「秩父版」の「コンパクト+ネットワーク」社会の構築に向けて取り組むこととします。

■秩父版「コンパクト+ネットワーク」社会の考え方

- 本市の考える「コンパクト」は、居住や都市機能を中心市街地に一極集中させるのではなく、地域の暮らしや文化を守るため、市域を10の地域に区分した上で地域ごとに地域を支える拠点（中心拠点・地域拠点・地区拠点）を形成し、それぞれの拠点に緩やかに居住や都市機能を集約させようとするものです。
- しかし、今後人口減少が進み”地域の規模”が縮小していくと、自らの地域で行政・教育・医療・福祉・商業などの生活機能を賄うことがますます難しくなっていきます。そこで、こういった不足する都市機能を「ネットワーク」（道路や公共交通ネットワーク等）を通じて隣接地域と共有することによって、互いに支えあう「コンパクト+ネットワーク」社会の形成を目指します。



基本目標 3	多くの人が訪れ、 美しい自然環境と文化を堪能できるまち
キーワード	交流人口、関係人口、二地域居住、自然、文化、観光、回遊、催事

本市には国立秩父多摩甲斐国立公園をはじめとする多くの自然公園、秩父ミュージアムパークなどの都市公園、ジオパーク秩父にみられる美しい自然環境と、秩父（夜）祭や龍勢祭をはじめとする祭り文化、秩父銘仙などの文化遺産、荒川のそばや吉田の観光農園など多くの観光資源があふれています。また、近年においても、秩父市出身の有名人の活躍やアニメツーリズムなどもあいまって、より多くの観光客が訪れるようになりました。

新型コロナウイルスの流行後の観光の動向は不透明な状況にありますが、今までの取り組みによって、秩父市の全国的な認知度は大きく向上しています。今後は、「交流人口」の拡大による「豊かさの実現」に加え、減少する人口を補い、地域に多様に関わっていく「関係人口」の拡大に取り組むことが望まれています。

そこで、無電柱化や街並み景観の向上、駅周辺や観光拠点の整備、地域を回遊できる道路・公共交通ネットワークの構築など「交流人口」を拡大させる施策に加えて、二地域居住の推進や体験、秩父の自然・文化をより深く紹介する参加型の新たな観光スタイルの開発、ボランティアやCSR活動、鉄道沿線や流域自治体との交流活性化など、「関係人口」の拡大を図る取り組みを通じて「**多くの人が訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち**」を目指します。

※CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任

「関係人口」とは？（総務省：関係人口ポータルサイトより一部加筆）

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉で、例えば、過去に勤務地だった、祖父母の出身地である、学生の際に合宿で何度か訪れたなど、地域に何らかの「関係」や「縁」などがある人を指します。

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。



基本目標 4	誰もが「安心・安全」に暮らせるまち
キーワード	居住誘導、空き家、通学路、施設老朽化、自然災害、防災、避難対策、耐震化、交通安全、防犯、医療

本市は荒川の最上流に位置し、下流に人口4,000万人を超える首都圏の大切な水源地帯となっています。市域の約87%にあたる森林が水を貯え、4つのダム群は台風などの災害時に洪水量を調整し、渇水時には備えていた水を供給し首都圏の水不足を補っています。本市だけでなく下流域の安心・安全を守るためにも、水源地を中心とする森林やダム周辺等の「国土の適切な管理」に取り組んでいきます。また、これら山間地域では非常に多くの地域が土砂災害警戒区域に指定されているため、いざというときに頼れる避難場所となる拠点や緊急輸送道路を中心とする幹線道路の整備を行っていきます。

市街地においては、土砂災害や洪水(外水氾濫)などによる人的被害は少ない安全な地域と想定されていますが、ゲリラ豪雨などによる雨水出水(内水)、河川氾濫による家屋の倒壊、老朽家屋を発端とする大規模火災への対策が必要な状況になっています。公共施設の長寿命化や統廃合を進めつつ、これらと一体となったエリアマネジメントによって、民間建築物の耐震化や空き家等の利活用を促進し、地域安全対策と居住環境の向上を図るとともに、集団移転など安心・安全なエリアへの居住誘導に取り組めます。

また、セーフコミュニティの推進による通学路を中心とした安全性の確保や防犯体制の強化、救急を含めた医療体制の充実などに引き続き取り組み「誰もが安心・安全に暮らせるまち」を目指します。

(4) 都市計画マスタープランの目的とする日常的な暮らしのイメージ

都市計画マスタープランでは、さまざまな都市づくりの課題を扱っています。しかし、これらの実現が私たち市民の暮らしにどのような影響があるのでしょうか。

ここでは、そのイメージを共有するために、これからの世の中がどのように変わっていくのか、またその中で秩父市がこれからのまちづくりにおいてどのような社会を目指しているのか、いくつかのライフスタイルをストーリーに仕立てました。

都市計画マスタープランでは、このような生活の実現に向けて様々な取り組みを進めていきます。

【市街地：子育て世帯】

私はフリーのエンジニアなのですが、東京の会社から独立してからもなんとなく東京にそのまま拠点を置いていました。賃貸マンションに妻と5歳の息子と3人暮らしです。ただ、子どもがすごく活発で、部屋が手狭に感じてきてしまいました。下の階の人に「もう少し静かにできませんか？」なんて言われてしまって…。もっとこの子をのびのびとした環境で遊ばせてあげたいと思っていたんです。もともと、妻も私も田舎に庭付き一戸建てを買うっていう夢があったので、思い切って秩父に引っ越すことにしました。なんで秩父かっていうと、やっぱり自然豊かな場所だけど都内まで電車1本で行けちゃうところですかね。よく妻とも遊びに来ていましたし。あと、田舎のわりにドローンを活用したり、小学校でもプログラミングの授業をやっていたり、けっこう最先端技術にも力を入れているんですね。…仕事につながるかも、なんて下心もありました。

それで、子どもが小学校にあがると同時に秩父に引っ越してきました。今まで受けていた仕事はリモートでできるので、そこは問題なかったです。たまに仕事を受けている会社に行くこともありますが、東京方面には電車で、県内だったら車で行っちゃいます。新しい道路も通ってけっこう便利です。

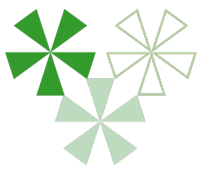
近所の方に誘ってもらって、地域のお祭りにも参加しています。そこで知り合った方で市内で会社を経営している方がいて、力を貸してもらいたいと頼まれました。今は秩父のいろんな会社で作業のシステム化やHP作成など、幅広い仕事をしています。子どもも毎日外で遊びまわって楽しそうだし、妻も家庭菜園をしたりして、家族みんな充実しています。



【市街地：一人世帯】

私は横浜生まれ横浜育ちでしたが、田舎暮らしにあこがれ思い切って秩父市に引っ越してきました。大学を卒業してから都内にオフィスのある地理情報やGPSを扱うIT企業に就職したのですが、従業員はたくさんいるのにオフィスは本当に小さくて、週に1回決められた曜日に通えばいいだけです。

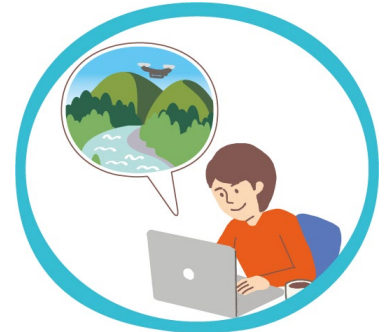
会社からの家賃補助は変わらないので、その分ちょっと広めのアパートを借りて普段はバイク、土日は東京からくる仲間とレンタカーで遊びに行きます。自分の暮らし方だと、こういった車の使い方が最も効率的なんです。



大学時代は登山部だったので、そこら中の山に登ってはドローンを飛ばしています。家に帰ってからドローンの飛行データを分析してネットにアップしているのですが、ドローンにはいろいろなセンサーがついていて可能性を感じます。秩父でもドローンを仕事にする会社が最近できたらしくて、こういったところから地方創生が広がっていけばいいですね。

秩父のいいところは、まちなかがコンパクトにまとまっていて、便利なのにちょっと車で移動すればものすごく自然が豊かなところです。横浜にだってすぐ帰れますし。

転勤もあるのでどれだけ秩父にいられるかはわかりませんが、まだまだ秩父での暮らしを楽しみたいと思います。あと…秩父の一番いいところはお酒がおいしいことでした。大事なところ、最後にしちゃってすみません。



【市街地：高齢者世帯】

私は、駅に近いまちなかで妻と二人で年金暮らしをしています。秩父といえば夜祭ですから、冬が近づき太鼓を練習する音が聞こえてくると血が騒ぎます。子どもたちも既に独立して、東京で生活しているのですが、毎年この時期だけは山車を引くために帰ってきます。将来的には、この家を継いでほしいと心ひそかに思っているのですが、すぐ東京に帰っちゃいますし…なかなか言えませんよね。

日常生活は、近所に大型店舗があったり、銀行も歩いて行ける距離にあるのでそんなに困っていません。ほとんどのところには歩いていけるので、どんどん歩くようにしています。ただ、病院だけはなじみの先生に診てもらうためにバスを利用しています。この年齢にもなると、運転に不安があるので免許を返納しました。

少し前まで、まちなかには古い空き家がちょこちょこあって、さびれていくのを感じていました。でも、最近は狭い敷地が合わさって新しい家が建っています。まちなかに若い人が帰ってくるのは、やっぱりいいことですよね。私も子どもが秩父に帰ってきてくれるなら、土地を広げるいいやり方がないか行政の人に相談してみようと思っています。

秩父は東京から電車1本で来ることができるので、いいところだと私は思うんです。コロナのことがあってから、リモートワークっていうのが流行って、東京の一極集中も少しやわらいできたそうじゃないですか。最近も、都内から移り住んだ若い夫婦が近所にいるのですが、週に1回だけ東京に通う生活をしているそうです。

あの子たちも、東京で借家ぐらしをするんだったら、一緒に暮らしたいなと…すみません、子どもの話ばかりで。

【郊外：子育て世帯】

私は秩父出身ですが、夫の職場が都心部なので都内の賃貸に住んでいました。本当は私、地元に戻ってマイホームを持つことが夢だったんです。都内で建てるのってけっこうお金がかかりますよね。でも夫も仕事があるし、都内を出る気は無いようだったので言い出せなかったんです。だけど最近いろんな会社でリモートワークが進んできているみたいで、夫の会社でもそういう環境が整ってきて、時々家で仕事をするようになりました。

ちょうど子どもが産まれて当時の家も手狭になってきたので、「思い切って秩父に家建て

ない？」って提案してみたんです。そしたら案外、いいねって言ってくれて。夫もこれから在宅勤務がメインになるみたいで、もっと快適で広い家がほしいと思うようになったみたいなんです。テレビ会議する時、狭いアパートじゃ子どもの泣き声も気になりますしね。

今の秩父の家は電車の駅からは少し離れていますが、広くて快適です。夫は月に2・3回都内の会社に行く程度なので、晴れた日はサイクルシェアを利用しています。この辺は私たちと同じ子育て世代の人たちがけっこう住んでいて、近くにサイクルポートがあるんです。駅の近くに駐車場借りなくていいし、乗り捨てできて便利です。市内に職場のある人も通勤に使っているみたいです。

今、子どもは3歳なんですけど、道の駅にできたキッズスペースや芝生の広場で遊ばせています。この間道の駅に行った時、アウトドア用品が売っているのを夫が見つけて、子どもがもう少し大きくなったら近くの山や河原でキャンプするんだ！ってテントとか選んでました。まったく、気が早いんだから。



【集落地：5人世帯】

私は市内の会社に勤めている夫と高校生の子、夫の両親の5人で暮らしています。夫婦共働きで、夫はちょっと前まで2時間かけて通勤していましたが、秩父に新工場を建設することになったときは本当にうれしかったです。

住んでいるところはまちなかから少し外れたところにありますが、基本的には車で生活しているので困ることはあまりありません。それでも、最近ネットでもできることも増えましたし、施設も一つの場所に集まってきたので、あっちに行ったりこっちに行ったりは少なくなりました。

子どもの通う高校はまちなかであって、以前は誕生日になると原付バイクの免許を取って高校まで通う子も多かったのですが、バスも利用しやすくなったのでバス通学させています。卒業後の進路はまだ決まっていませんが、進学するなら自宅から通ってほしいと思っています。

敷地内には畑があって、義父と義母は野菜を作って直売所に卸したり、近所の観光農園の手伝いに行っています。普段は仲のいい義父と義母ですが、けんかをするとう義父は軽トラで、義母は乗合タクシーでどこかに出かけていきます。わたしもそのうちそうなるのかしら？

あ、そうそう、最近道の駅に天然酵母のパンが販売されるようになりました。都会からきた人が作っているそうで、おいしくてすぐに売り切れてしまうそうです。





【山間地：高齢世帯】

私は山奥で一人暮らしをしています。夫には先立たれ、集落のみんなと助け合いながら生活しています。昔はこの集落にもたくさんの人が住んでいましたが、どんどんとまちなかに引っ越していき、今は年寄りばかりになってしまいました。

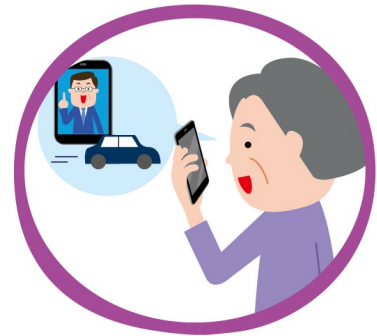
山での一人暮らしは寂しいものですが、たまには子どもや孫がまちなかから来てくれますし、最近は土日になると都内から若い人たちがやってきて、古い家を修理してピザ釜を作ったりして山の暮らしを楽しんでいるみたいです。この間、昔からある小さなお祭りの手伝いを頼んだら、喜んで引き受けてくれました。

食料や生活必需品については、移動販売のお兄さんをお願いをしています。以前はまちなかの百貨店から軽トラで届けてくれていましたが、今は道の駅までは観光に来た人と一緒にバスで運んでくれて、そこから先だけ軽トラを使うようになったそうです。移動の時間が少なくなって、楽になったってお兄さんは言っていました。

お医者さんは2週間に一度診療所から迎えに来てもらっていますが、他のお医者さんにかかるときにはテレビ（タブレット）でお医者さんとお話をして、お薬は薬局が届けてくれます。また、そのほかにも支所の中にある福祉センターでおしゃべりをしたり、体を動かしたり、出張商店街でお買い物をしたりしています。家から支所までとても歩いてはいけませんが、最近、携帯電話を使ってほかの人にうまく乗せてもらう”しくみ”ができたので、すごく便利になりました。

年に数回はまちなかに住む子どもや孫に会いに行きます。道の駅まではその”しくみ”で送ってもらい、道の駅からは運転手のいないバスで三峰口まで行って、その先は電車です。この前、連絡なしに会いに行ったら、すごくびっくりされちゃいました。

住み慣れた土地から離れるのは、なかなか勇気のいることです。谷の向こうの人たちは、みんなで山を出る決断をしたみたいだけど、私はずっとここにしようと思います。だって、ずっとここに住んでたんだもの。



2. 将来都市構造の設定

(1) 将来都市構造の基本的な考え方

将来都市構造は、都市づくりのテーマである『秩父固有の歴史と文化、自然に包まれて、安全で心地よい暮らしと訪れる喜びを実感できる、魅力あふれるまちづくり』を実現するための都市構造を示すものです。

このため、都市づくりのテーマを支える4つの基本目標を踏まえた上で、以下の考え方に基づいて「拠点（点）」「軸（線）」「土地利用ゾーン（面）」の3つの観点から、将来の都市の骨格構造を示します。

① 拠点

土地利用構成や都市機能の集積状況、地域の資源などを活かしつつ、「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」や「多くの人々が訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち」の実現に向けて、市全体または地域の中心として必要となる都市機能を集積・配置する「拠点」を設定します。

【中心拠点】

- 市全域の発展を支え、市民のニーズに応えることのできる多様かつ高次な都市機能の集積と、多くの来訪者を迎える市の玄関口としての交流機能を備えた範囲を、「中心拠点」と位置づけます。

【地域拠点】

- 中山間地域等において、日常的な生活利便に応える都市機能を一定程度集積させる範囲を「地域拠点」と位置づけます。

【地区拠点】

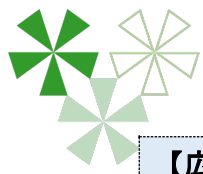
- 中心拠点を補完し、身近な場所で日常的な生活利便に応える都市機能の一定程度の集積を維持する範囲を「地区拠点」と位置づけます。

【交流拠点】

- 本市の歴史や文化、自然を代表し、来訪者の活動を支援する機能などの充実を図る資源周辺や、地場製品の販売拠点ともなる道の駅などの観光施設周辺を「交流拠点」と位置づけます。

② 軸

土地利用構成や都市機能、地域資源などの配置状況を踏まえつつ、通勤や通学、買物などの日常生活、来訪者の観光流動などの「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ+情報が行き交う活力あるまち」の実現に向けて、周辺都市と本市、市内各拠点を相互に連絡する道路や鉄道を「軸」と設定します。



【広域連携軸(道路系・軌道系)】

- 秩父圏域と県内外の周辺都市を結び、広域的な連携を担う道路及び鉄道を「**広域交通軸**」と位置づけます。

【地域連携軸】

- 市内や秩父圏域の拠点間を結び、日常的な暮らしの利便性を支え地域間の連携を担う道路を「**地域連携軸**」と位置づけます。

【市街地軸】

- 広域連携軸や地域連携軸を補完しつつ、市街地内の円滑な移動を支える市街地の骨格道路を「**市街地軸**」と位置づけます。

【交流軸】

- 鉄道駅と交流拠点、交流拠点相互を結び、観光・レクリエーション施設などへのアクセス性や、市内外の観光周遊を支える道路を「**交流軸**」と位置づけます。

③土地利用ゾーン

土地利用の構成やこれを背景とした地域の特性を踏まえつつ、『秩父固有の歴史と文化、自然に包まれて、安全で心地よい暮らしと訪れる喜びを実感できる、魅力あふれるまちづくり』を実現するため、都市計画区域外や、周辺自治体まで含めた、広大な秩父地域全域における安心・安全で多様な暮らし方を支える市街地・集落地の形成、美しい自然など固有の地域資源の保全・活用、都市と自然との調和などの視点から、一定のまとまりある土地利用の方向性を示すものとして、「**土地利用ゾーン**」を設定します。

【市街地ゾーン】

- 定住を支える住宅地や暮らしの利便性を高める商業地、業務地、公共施設を含めた生活サービス関連施設用地などで、魅力ある都市空間や生活環境の形成が求められるエリア（用途地域の指定区域）や、用途地域外で一定程度宅地化が進み、土地利用誘導や都市基盤施設の確保などが求められるエリアを「**市街地ゾーン**」と位置づけます。

【準市街地ゾーン】

- 用途地域外の宅地利用が進んでいる地域などで、都市基盤施設の確保などが求められるエリアを「**準市街地ゾーン**」と位置づけます。

【産業ゾーン】

- 市の経済を牽引する工業地など、産業地としてのまとまりを有するエリアを「**産業ゾーン**」と位置づけます。

【田園集落ゾーン】

- 用途地域外や都市計画区域外にあって、周辺の自然環境や農地などの維持・保全、ふるさと感じさせる田園風景の保全などに配慮しながら、定住や地域コミュニティを維持するエリアを「**田園集落ゾーン**」と位置づけます。

【森林・自然ゾーン】

- 秩父多摩甲斐国立公園をはじめとする良好な自然環境の保護や、適切な維持管理とともに、市民や来訪者の観光やレクリエーション、自然体験・学習の場として活用するエリアを「**森林・自然ゾーン**」と位置づけます。

【土地利用検討ゾーン】

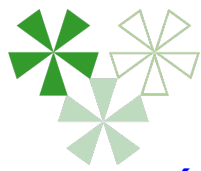
- 大規模跡地にあっては、「都市づくりのテーマ」の実現に向け、土地利用のあり方を検討しつつ、利用促進を進めるエリアを「**土地利用検討ゾーン**」と位置づけます。

【土地利用調整ゾーン】

- 交通アクセスが向上する区域にあっては、「都市づくりのテーマ」の実現に向け、周辺土地利用との調整のもとで土地利用のあり方を検討するエリアを「**土地利用調整ゾーン**」と位置づけます。

【大規模公園】

- 市民や来訪者のレクリエーションの場として活用される大規模な公園を「**大規模公園**」と位置づけます。



(2) 将来都市構造の設定

「将来都市構造の基本的な考え方」を踏まえ、「拠点」「軸」「土地利用ゾーン」を次のように設定し、将来都市構造を構築します。

① 拠点

【中心拠点】

中心拠点においては、市全域の発展を支え、市民の多様なニーズに応えることのできる商業・サービス、医療・福祉や行政サービスなどの基幹的な機能の集積や、多くの来訪者を迎える市の玄関口としての交流機能と、利便性の高い都市型居住機能を兼ね備えた拠点形成を進めます。

- ・ 西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺
(本町・中町・上町・桜木町・上野町、熊木町、上宮地町、宮側町、番場町、東町、野坂町付近)

【地域拠点】

地域拠点においては、地域における行政サービスの提供をはじめとする公共公益施設の集積を活かしつつ、公共交通の結節点としての乗り継ぎ機能、その他地域の住民の日常的な生活利便を支える機能の立地誘導による拠点形成を進めます。

- ・ 吉田総合支所周辺
- ・ 大滝総合支所周辺
- ・ 荒川総合支所周辺

【地区拠点】

地区拠点においては、生活圏域における行政サービスの提供など、日常生活を支える拠点形成を進めます。

- ・ 影森駅・影森出張所周辺
- ・ 久那出張所周辺
- ・ 高篠出張所周辺
- ・ 原谷出張所周辺
- ・ 尾田蒔出張所周辺
- ・ 大田出張所周辺

【交流拠点】

交流拠点においては、本市の歴史・文化や自然の豊かさなどにふれ、その個性や魅力を感じることでできる空間として、また、来訪者へのおもてなしを提供する場、地域情報を提供する案内機能などを備えた空間、さらに旧市街地に残る「通り」や「横丁」では、界限のにぎわいや風景を楽しめる環境づくりなどによって、「秩父」を楽しむことのできる拠点形成を進めます。

<歴史・文化>

- ・ 中心市街地活性化区域及び腰田堀西側地区計画周辺
- ・ 三峯神社周辺

<公園>

- ・ 秩父ミュージズパーク周辺
- ・ 羊山公園周辺
- ・ 聖地公園周辺

<駅・道の駅>

- ・ 西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺
- ・ 三峰口駅周辺
- ・ 道の駅周辺（ちちぶ、大滝温泉、あらかわ、龍勢会館）

<自然>

- ・ 中津峡周辺
- ・ 吉田元気村周辺

②軸**【広域連携軸(道路系・軌道系)】**

広域連携軸においては、本市と周辺都市を結び、広域的な物流や来訪者のアクセス性、日常的な利便性を高め、はじめて訪れる方にもわかりやすく災害に強い交通軸としての機能を高めます。

<道路系>

- ・ 西関東連絡道路
- ・ 国道140号
- ・ 国道299号
- ・ 主要地方道皆野両神荒川線
- ・ 一般県道秩父停車場秩父公園線（都市計画道路秩父駅前通線）
- ・ (仮称)長尾根トンネル
- ・ (仮称)宮地・横瀬線

<軌道系>

- ・ 西武鉄道
- ・ 秩父鉄道



【地域連携軸】

地域連携軸においては、広域連携軸を補完するとともに、本市の一体性や秩父圏域を含めた地域間の連携を強化する視点から、中心拠点、地域拠点及び生活拠点を結び、各種生活関連サービス機能の利用など、日常的な暮らしに関わる円滑な移動を支える軸としての機能を高めます。

- ・ 主要地方道熊谷小川秩父線
- ・ 主要地方道秩父児玉線
- ・ 主要地方道長瀬玉淀自然公園線
- ・ 主要地方道皆野荒川線
- ・ 一般県道小鹿野影森停車場線
- ・ 一般県道吉田久長秩父線
- ・ 一般県道下日沢東門平吉田線
- ・ (仮称)定峰トンネル
- ・ 主要地方道秩父荒川線
- ・ 主要地方道秩父上名栗線
- ・ 主要地方道高崎神流秩父線
- ・ 一般県道中津川三峰口停車場線
- ・ 一般県道下小鹿野吉田線
- ・ 一般県道藤倉吉田線

【市街地軸】

市街地軸においては、広域連携軸や地域連携軸を補完しつつ、市街地の骨格を形成し、市街地内の安心・安全でスムーズな移動を支える軸としての機能を高めるとともに、地域を支える根幹的都市機能への広域連携軸・地域連携軸からのアクセス改善も行っていきます。

また、都市計画道路については、事業中路線の延伸ほか長期未整備都市計画道路や災害リスクが高い区域に計画された路線・区間を含め適宜見直しを行うなど計画的な整備を図ります。

<計画的に整備する路線>

- ・ 市道幹線3号線（一部都市計画道路永田通り線・中央通り線）
- ・ 市道幹線75号線（一部都市計画道路中央通り線）
- ・ 市道幹線51号線、佐久良橋（一部都市計画道路お花畑通り線）
- ・ 市道幹線53号線
- ・ 市道幹線6・8・10号線
- ・ 市道影森140号線
- ・ 市道幹線4号線、和銅大橋
- ・ 久那橋
- ・ 都市計画道路
- ・ 秩父市立病院から国道299号及び近接するヘリポート等へのアクセス改善
- ・ 埼玉県立秩父高校、秩父農工科学高校へのアクセス改善

【交流軸】

交流軸においては、鉄道駅と交流拠点、交流拠点相互を結び、観光・レクリエーションの場となる交流拠点へのアクセス性や、沿道の風景も楽しみながら市内外の観光周遊を可能とする軸としての機能を高めます。

<道路系（広域）>

- ・ 主要地方道秩父上名栗線（浦山ダム）
- ・ 一般県道秩父多摩甲斐国立公園三峰線
- ・ 市道川上秩父線

<道路系（徒歩周遊）>

- ・ 西武秩父駅～御花畑駅～秩父神社～秩父駅間
- ・ 秩父夜祭屋台曳行ルート等
（主要地方道秩父上名栗線、一般県道秩父停車場秩父公園線、都市計画道路御花畑通り線、番場通りなど）

<軌道系>

- ・ 西武鉄道
- ・ 秩父鉄道

③ゾーン**【市街地ゾーン】**

市街地ゾーンにおいては、豊かな自然の中に暮らし、働く新たな定住を支える住宅地や暮らしの利便性を高める商業地、業務地、公共施設を含めた生活サービス関連施設用地など、誘導施設の立地や空き家を活用したエリアマネジメント、良好な住環境の形成を通じて人口密度水準を維持します。

また、道路や公園、下水道などの都市基盤施設の整備や美しい街並みの形成などによって、魅力ある都市空間や生活環境の形成を進めます。

- ・ 用途地域指定区域（工業地域、工業専用地域、災害の恐れのある区域を除く）
- ・ 大野原地区（工業地域、工業専用地域、災害の恐れのある区域を除く）
- ・ 和泉町

【準市街地ゾーン】

用途地域外にあって、一定程度の宅地化が進んでいるエリアにおいては、自然環境とのバランスに配慮しながら、良好な生活環境・生産環境の形成を進めます。

- ・ 高篠周辺（山間部除く）



【産業ゾーン】

本市の産業特性である鉱工業施設の集積地や工業団地などの産業機能の集積地においては、周辺の自然環境などと調和しつつ、広域的な物流の円滑性の確保や生産性の高い操業環境の形成を進めます。

- ・みどりが丘工業団地
- ・高篠地内
- ・武甲山周辺
- ・蒔田サテライト工業団地
- ・原谷地内
- ・影森地内
- ・堀切サテライト工業団地

【土地利用検討ゾーン】

大規模な施設跡地においては、コロナ禍後の社会環境の変化を見据えつつ、将来都市像の実現に寄与する土地利用の促進に向けて、そのあり方を検討します。

また、秩父地方公設卸売場については、昭和期における当初の都市計画決定より大きく取扱量が減少するなど役割が変化しており、規模の縮小も含めた機能の変更を検討します。

- ・旧秩父セメント第一工場跡地
- ・県立秩父東高校跡地
- ・秩父駅東側
- ・秩父地方公設卸売市場

【土地利用調整ゾーン】

交通アクセス条件が向上している区域においては、周辺の土地利用との調整を図りつつ、生産機能の国内回帰の受け皿の確保なども視野に、将来都市像の実現に寄与する土地利用の促進に向けて、そのあり方を検討します。

- ・西関東連絡道路及び国道299号の交差部付近

【田園集落ゾーン】

山間の平地部に広がる農地と集落地においては、周辺の自然環境や農地などの維持・保全、ふるさとも感じさせる田園風景の保全などに配慮しながら、定住や地域コミュニティの維持、二地域居住などの新たな居住ニーズにも対応できるよう、公共交通や生活道路の充実、防災対策などによって、良好な集落環境、営農環境の形成を進めます。

- ・農業振興地域に含まれる地域で農地や集落地が広がる範囲

【森林・自然ゾーン】

森林・自然ゾーンにおいては、良好な自然環境の保護と、適切な森林施業や災害防止策などにより、適切な維持管理・保全を図ります。また、市民や来訪者の観光やレクリエーション、自然体験・学習の場としての活用を進めます。

・ 森林地域周辺

・ 河川、水面周辺

【大規模公園】

大規模公園においては、市民や来訪者のレクリエーションの場として良好な自然環境の保全や利用者の楽しみ・利便性を高める機能の充実を進めます。

・ 秩父ミュージアムパーク周辺

・ 羊山公園周辺

・ 聖地公園



＜将来都市構造図－拠点配置と広域連携＞

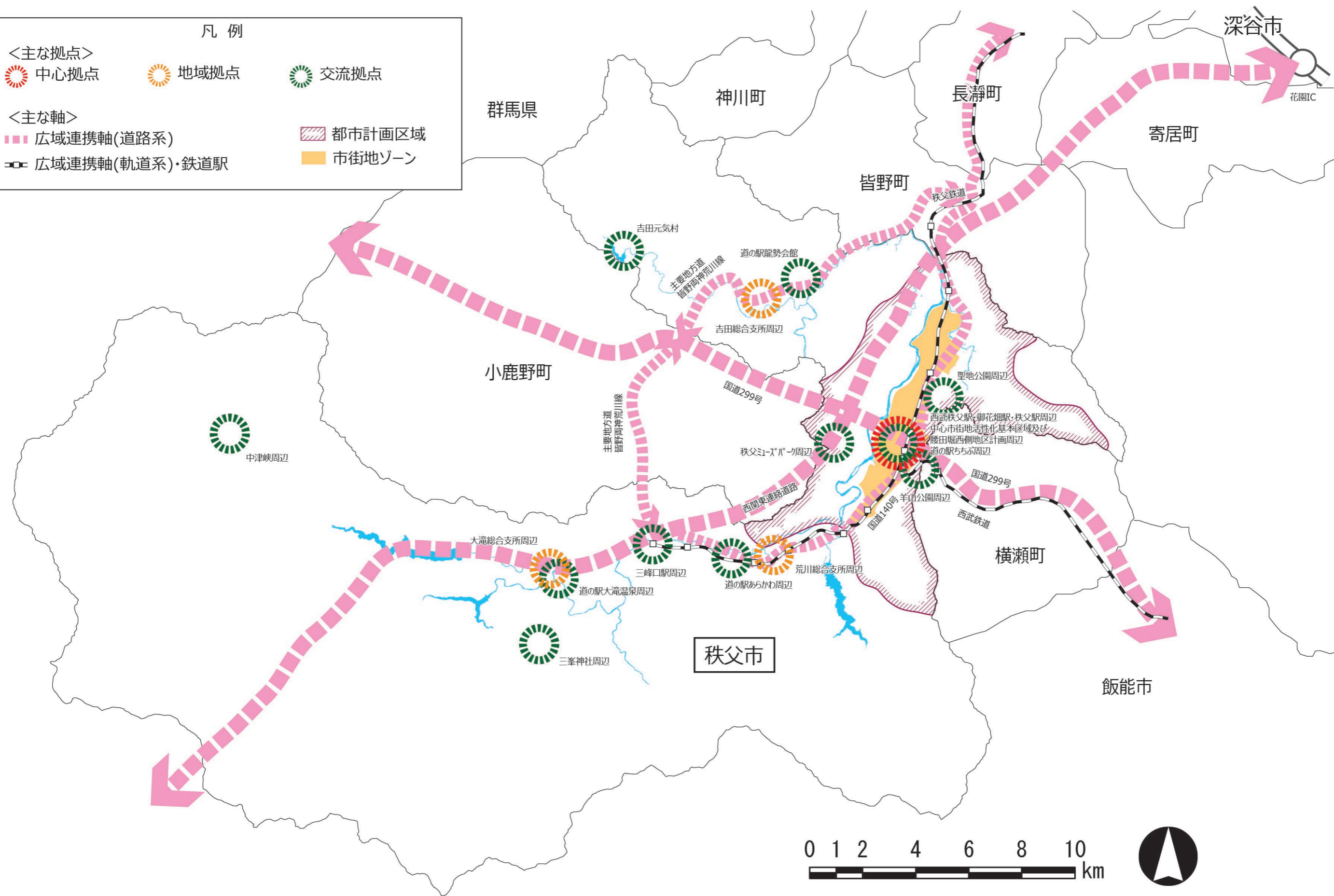
凡例

＜主な拠点＞

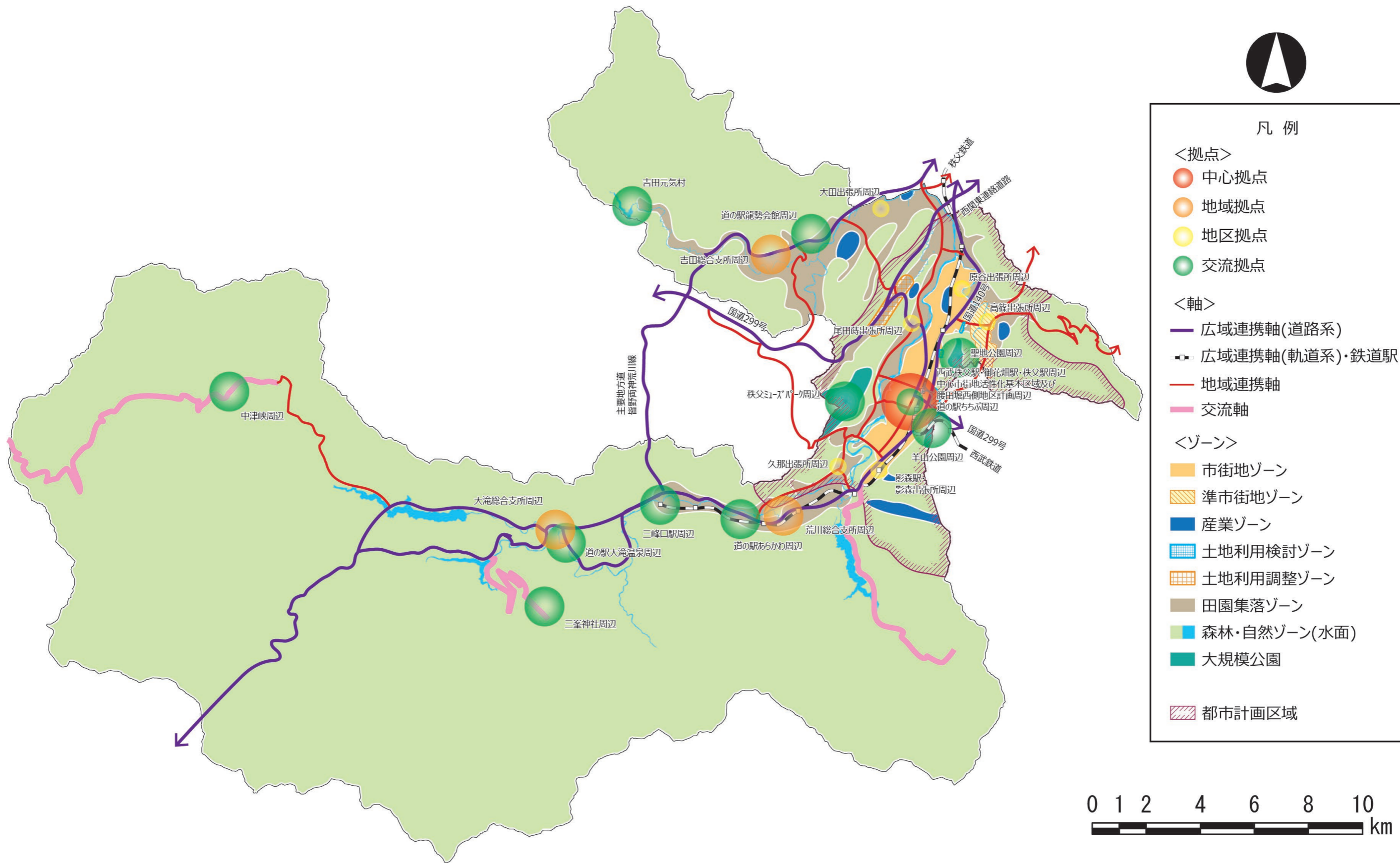
- 中心拠点
- 地域拠点
- 交流拠点

＜主な軸＞

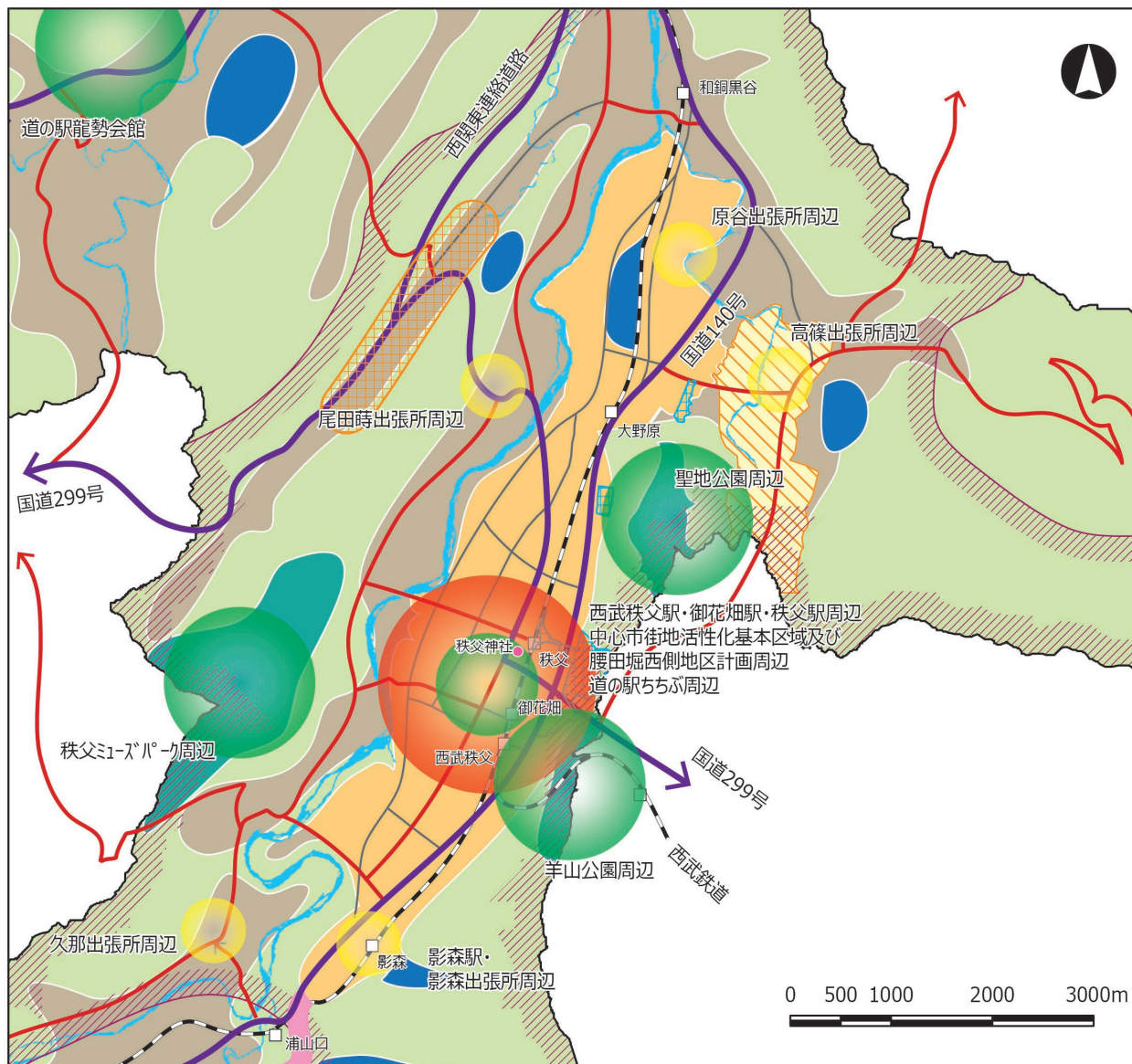
- 広域連携軸(道路系)
- 広域連携軸(軌道系)・鉄道駅
- 都市計画区域
- 市街地ゾーン



<将来都市構造図－拠点・ゾーン・軸の配置>



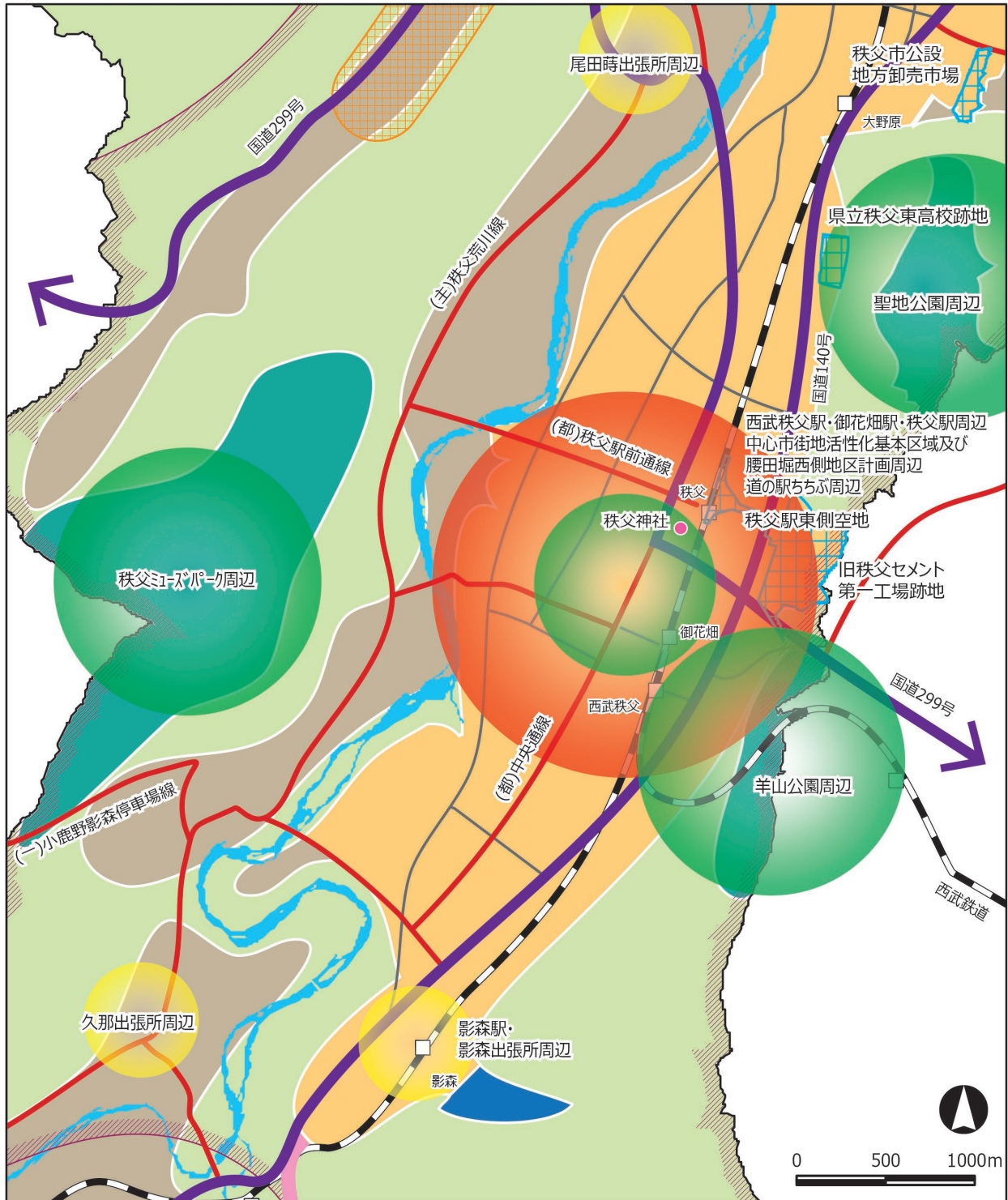
＜将来都市構造図－中心部拡大＞



凡 例		
<p>＜拠点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中心拠点 ● 地域拠点 ● 地区拠点 ● 交流拠点 <p> 都市計画区域</p>	<p>＜軸＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域連携軸(道路系) 広域連携軸(軌道系)・鉄道駅 地域連携軸 市街地軸 交流軸 	<p>＜ゾーン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地ゾーン 準市街地ゾーン 産業ゾーン 土地利用検討ゾーン 土地利用調整ゾーン 田園集落ゾーン 森林・自然ゾーン(水面) 大規模公園



<将来都市構造図－中心市街地拡大>



凡例		
<拠点>	<軸>	<ゾーン>
● 中心拠点	— 広域連携軸(道路系)	市街地ゾーン
● 地域拠点	— 広域連携軸(軌道系)・鉄道駅	準市街地ゾーン
● 地区拠点	— 地域連携軸	産業ゾーン
● 交流拠点	— 市街地軸	土地利用検討ゾーン
	— 交流軸	土地利用調整ゾーン
		田園集落ゾーン
		森林・自然ゾーン(水面)
		大規模公園
▨ 都市計画区域		

3. 将来人口の見込み

人口減少や少子高齢化が見込まれる中、都市づくりのテーマに沿った取組によって将来都市像を実現するには、将来の人口規模に見合った適正な公共投資によって、効率的・効果的に都市づくりを進めることが求められます。

このため、都市づくりの基本的な枠組みとして、次のように将来的な人口規模を想定します。

秩父市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」によると、本計画の中間年次である2030（令和12）年には2015（平成27）年の63,555人と比較し18.0%、11,444人減の52,111人となり、目標年次の2040（令和22）年には、2015（平成27）年から29.6%、18,836人減の44,719人になると推計されています。

また、2020（令和2）年3月に改訂された「第2期秩父市総合戦略」では、出生率の向上、移住促進などの政策効果により、国立社会保障・人口問題研究所の推計値よりも上振れとなる2030（令和12）年に53,010人、2040（令和22）年には46,227人程度に人口減少を食い止めることができるとしています。

これらを踏まえ、目標年次の2040（令和22）年には「概ね4.5～5万人規模」の人口になることを前提に都市づくりを進めるものとします。

図 将来人口の推計結果

